

ホーム名：ヒューマンライフケア城東の湯グループホーム（コスモス・モクレン合体）

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I. 理念に基づく運営						
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスとしての意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	開設当初よりその人らしく暮らせる事を大切に独自の理念を掲げている。事務所、玄関、各ユニットに掲示し、ミーティングのさいに確認している。	掲示と共にミーティング時に斉唱し、年に一度は事業所の理念について職員でその意味について考えるようにしており、職員はしっかり共有している。	経験豊かな職員が定年により退職しているが、若い人材が積極的に力を投入する事と理念を受け継いでいくことで今後も入居者のその人らしさを尊重し支援を続けていかれたい。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内の行事に参加させて頂いている。買い物は歩いて行ける範囲で行っている。夜間を想定した消防訓練に参加して頂いた。児童デイサービスと交流があり子供たちに来て頂いている。	自治会に入会している。食事会、餅つき、地藏盆等の行事に入居者も参加させてもらっている。地域の敬老会や児童デイサービスの子供達がボランティアで来てくれたり、そのお礼に入居者がカップケーキを手作りしたりして交流している。	現状より更に地域とのつながりがひろがっていくように職員の意見や提案を期待している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	十分に活かさきれていない。地域貢献に至らず。認知症ケア専門士のポスターを掲げている。			
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議での意見を参考に業務の改善や、向上に繋がる様に取り組んでいる。	2ヶ月に一度入居者家族、地域包括、町内会長等の出席で、活発な意見が出されている。市職員の参加も呼びかけている。過去には民生委員にも参加の声をかけたこともあるが来られていない。地域包括の出席者からは「外部評価」の内容の公表についての意見も出されている。	市役所職員や民生委員の参加により更に有意義な会議になることが考えられるのでこれからも、次回の案内を兼ねた会議録の送付などを継続される事を期待する。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら協力関係を築くように取り組んでいる。	運営推進会議に地域支援センターの職員に参加してもらっている。	運営に関しての相談をこちらからしたり、連絡をしやすい関係にある。退去時の修理金についてなど、様々な問題に対してアドバイスを受けることができる。	今後も運営推進会議への出席も含めて市役所とは相談をしやすい関係を継続し、震災時の対応、地域への貢献と助け合い等におけるスムーズな連携が図れる事を期待する。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束しないケアに取り組んでいる	身体拘束についてスタッフ間で話し合いを持っている。家族様よりご希望(ベット柵)あるが代換えがないか常に検討している。玄関の開錠に関しては家族様からの反対もある。各ユニットの行き来は自由である。	過去に徘徊されて外に出られた方もいて、何かあった時のリスクを考え出入り口は施錠している。家族も安全重視の意向である。ベット柵はしていない。ベッドに不安のある入居者には床にマットレス、布団を敷いて休んでもらうようにしている。言葉かけには職員同士で気をつけ合い、確認している。	車椅子に長く座ったままということがなく、出来るだけ普通椅子に移乗してもらおうよう働きかけている。入居者に出来るだけ負担がかからないよう移乗のサポートの仕方がとても丁寧であった。何事にも慣れてしまわず常にお互いのチェックをすることで前向きな介護をされている。	
7		○虐待防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所ないでの虐待が見過されることがないように注意を払い、防止に努めている	どのような行為が虐待であるか日頃から話し合いを持っている。ケアカンファレンスで職員に周知している。本年度は2回の研修計画を予定している。			

8	<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見人制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している</p>	<p>後見人制度については家族様対応にて行われている。</p>		
9	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約時に十分時間をとり入居者様や家族様の不安を取り除く様に努めている。入居される程度慣れてから次の方に入居して頂いている。</p>		
10	6 <p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>要望や助言を頂いている。家族様と積極的にコミュニケーションを取る事を心がけている。</p>	<p>入居者の中で、比較的症状の軽い方にはできること、やりたいことをしてもらうようにしている。「意見箱」を設置している。「クレーム台帳」に細かい記録を残し、状況、内容、対策をしっかりと記入し、その後の報告と確認まで記載されている。希望についてもできるだけ前向きに検討している。</p>	<p>入居者にとって職員は家族同然の存在で、そのご家族にとっては自分に代わり家族を日々支えてくれる大切な存在である。退職や転勤で交代する時にはその事を心にとめてもらいたい。また、普段から自由に行き来できるユニット間の壁などに職員の顔写真入りの一言等の何らかのメッセージが楽しく掲示されるのも、喜ばれるのではと、提案する。</p>
11	7 <p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、それらを反映させている</p>	<p>定期的に個人面談を行い、意見を聞いている。スタッフミーティングで意見や提案を確認し改善するよう取り組んでいる。</p>	<p>職員に男性も多く、イベントや行事の内容についても積極的な意見が出される。人事考課は上司により行われ、毎年の昇給、休暇の取得についてもしっかりと管理されている。</p>	<p>いつまでも、職員同士、又、上司との間で意見や提案が言いやすいフラットな関係が続く事を願う。職員の前向きな元気な表情がとても良い。</p>
12	<p>○就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている</p>	<p>就業規則をスタッフの目にする場所に置いている。</p>		
13	<p>○職員を育てる取組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際の力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>法人内外の研修に参加している。社内の研修をweb会議にて行っている。介護技術の講習を行っている。その時々に応じた職員の悩みを徴収し問題解決に努めている。</p>		
14	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている</p>	<p>じょあみつネットに参加している。当施設で月1回会議を行い認知症の方のケアについて話合っている。</p>		

II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援

15	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>利用者と接し利用者から要望等が聞かれない場合は家族様から話を聞く様にして、利用者の気持ちを受け止めていくように努めている。</p>		
16	<p>○初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>利用者と家族様の思いの違いやこれまでの関係を理解し、受け止められるよう利用者だけではなく家族とも信頼関係を築けるように努めている。</p>		
17	<p>○初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>要求事項に応えられる能力をホームが有しているのかの確認を行い、他サービス利用も含めて検討し対応に努める。</p>		
18	<p>○本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている</p>	<p>家事全般などできる事は職員と共に生活を送って頂けるようにしている。その人に合わせたケアを行っている。</p>		
19	<p>○本人と共に過ごし支えあう家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている</p>	<p>疑問や要望があれば気兼ねなくおっしゃって頂ける関係作りに努め、家族様にもできる範囲での協力をお願いしている。家族様より協力の申し出もある。</p>		
20	<p>○馴染みの人や場と関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	<p>入居されたことで今までの関係が途切れる事のないよう出来る限りの支援を行っている。今まで行っていたスーパーや商店街へ行っている。</p>	<p>2週間に1度、馴染みの理容室に散髪に行かれる人や鳴野周辺の商店街に行って慣れた店を覗いたりする人もいる。友達が訪ねてくれることもある。墓参りなどには家族と一緒にいける。</p>	<p>入居者の意向の把握をすることにより馴染みの場所やものとの関係が少しでも続くように温かい支援を期待する。</p>
21	<p>○利用者同士の関係の支援</p> <p>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている</p>	<p>お互いに仲良く暮らせる様に、その場の雰囲気に応じてなじみの関係になれるように支援している。利用者同士の関わりを重要視し、職員は見守りの形で関わっていくようにしている。</p>		
22	<p>○関係を断ち切らない取り組み</p> <p>サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている</p>	<p>相談や要望があれば出来る限りの協力支援を行う。</p>		

Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	常時希望や意向を聞けるようにしている。ご本人が何を望まれているか分からない時は家族様にも話を聞いている。今後の事についても何人かの方と話をしている。	朝礼、夕礼時の話や申し送りノートにより入居者から聞き出せた意向を職員同士で共有している。出来るだけその情報も、右へならえ、ではなく、折を見ては自分で聞き出していくよう管理者は指導している。	新しい職員には余裕がない中、意向を聞き出すというのは特に難しいことであり、ベテランの職員はそのあたりをカバーし、配慮しつつ、チームとして入居者の意向を把握していかれる事を今後も期待している。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努める	利用者との会話やご家族からの聞き取り等で得た情報を活かして対応している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人一人の有する能力を把握し、職員間で情報を共有するように努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング <small>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</small>	ユニット合同で申し送りを行い利用者の変化に対しての情報の共有を図っている。定期的にカンファレンスを行い、利用者だけでなく家族の思いも反映できるよう取り組んでいる。	長期目標は4ヶ月、短期目標は2ヶ月としてチームで介護計画を見直している。担当者会議は月に一度行っている。介護計画の中で目標は、出来るだけ心身の能力を維持させるように身近な内容にしている。	各職員が介護計画を確認しながら、適切な支援をすることで、少しでも認知症の進行を遅らせることにつなげ、一人一人の入居者が穏やかに日を送れるように、今後も支援を期待している。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人経過記録を残し状況を把握している。日々の記録を元に情報の共有化を図り介護計画の見直しに活かしている。モニタリングを毎日全スタッフが記入している。通院の際などに役立っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスにとられない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ニーズについては出来る範囲で対応をしているが問題点も多い。臨機応変に対応できるように努力している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	十分な協力関係が結べていない部分も多い。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	往診は月2回の人と週1回の人がいる。希望者には歯科往診、訪問マッサージがある。他科受診に関しては家族様の協力がある。医療機関への情報提供は随時行っている。	入居前のかかりつけ医を引き続き利用している方もおられる。ホームへの往診は、入居者の状態で回数は異なり、往診を利用していない方もおられる。歯科往診の利用者は現在9名である。往診時には記録を頂いている。	ホームの協力医療機関とは、往診の他24時間オンコール体制で入居者の安心をかっている。内科以外での受診においても情報漏れが無い様に、今後も家族・医師との連携を図っていかれたい。

31	<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるよう支援している</p>	<p>24時間相談できる関係が築かれている。往診日とは違う日でも訪問して頂ける。</p>		
32	<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている</p>	<p>利用者が入院した際、定期的に病院に訪問し利用者との関わりが切れないようにしている。病院関係者や家族様との情報を共有する事で退院時の受け入れがスムーズに行くように努めている。</p>		
33	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や、終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでい</p>	<p>終末期の方針については職員でグループワークしている。家族様には個別に思いを確認している。職員の意識や技術、家族様の協力を得てターミナルケアを行っている。</p>	<p>本人・家族に、延命治療の有無等も含めた重度化した場合や終末期のあり方について伺い、書面に記録を残している。ホームでの“看取り”を念頭に職員で話し合いや研修をしているところである。本社作成の「看取り指針」が準備されている。</p>	<p>現在ホームでの“看取り”を希望される家族も数名おられる。住み慣れたホームで、生活を共にした職員に見守られ最期を迎えられるという安心は大きい。実施に向けた取り組みに期待する。</p>
34	<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>急変や事故発生時の対応についてはマニュアルで確認できるようにしている。入職時に職員に指導している。</p>		
35	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>併設のディサービスを含めた建物全体の防災訓練を消防署より来て頂いて実地訓練を年2回行っている。昨年より夜間を想定した訓練を行い地域の方に協力して頂いた。今年度は夜間を想定した訓練を行う。</p>	<p>昨年8月、地域の方に参加して頂き夕方からの避難訓練を実施した。車椅子の方の居室明示した見取り図を作成し、避難経路と共にお渡しした。災害時避難場所は天王田公園、地域として水害時避難場所をスーパー屋上駐車場としている。防火管理者は、町田管理者。</p>	<p>どの職員も非常時に適切な避難誘導が出来るよう、日頃の訓練に力を入れられたい。大規模災害時における入居者家族との連絡方法や、職員も家族間で避難場所の確認や連絡方法を取り決めておくなど、いざという時の為の取り決めをされておく事が大切かと思う。</p>

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者のプライバシーを尊重している。普段の言葉掛けやトイレ誘導の声掛けについて職員間で統一した声掛けを行っている。接遇の勉強会を行い再確認をしている。	言葉遣いや接遇など、気になる点は職員同士注意し合っている。排泄時、特に失禁された時での対応に気を付けている。個人記録を含む書類物は戸棚に保管している。	今後も普段の言葉かけや排泄・入浴時での対応等、人格を尊重した接遇で支援されたい。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定が出来るような声かけを心がけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者のペースに合わせ無理強いないようにしている。利用者の希望に添えるよう家族様にも協力を仰いでいる。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的に訪問美容が来る。化粧に関しては介護計画書にも記載し、声かけを行っている。不定期で職員によるエステやマニキュアなどを行っている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	一人一人の状態を把握し、出来る事は手伝って頂いている。毎月何かしらのイベントを企画メニュー決めや買物を職員と共にやっている。季節ごとの行事を大切に季節感のある料理を提供している。	半調理された食材を業者に届けてもらう他、入居者の希望を取り入れたメニューを作り提供している。朝食はご飯食とパン食2種から選択でき、季節食や外食、またテラスでのバーベキューなど食の楽しさを提供している。	手作りの日はユニット毎のメニューである。別メニューにこだわらずに、2つのユニットで主食と副食を協力して作る事も取り組んでみては如何か。バランスの良い食事で、毎日の健康を維持されたい。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、集会に応じた支援をしている	水分チェック表を確認している。食が細い方には適宜補食を提供している。個人ごとに体重測定を毎日、週1回、月1回で行っている。夕方の申し送りで一日の水分量を把握している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを行っている。訪問歯科より助言がある。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄パターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	排泄チェック表で一人一人の排泄パターンを把握し毎回のチェックを行っている。	自分で排泄行動が出来る方も数名おられる。排泄表を基にトイレ誘導をこまめに行う事で、失禁せずにトイレでの排泄が出来る様になった方もおられる。	いつまでもトイレでの排泄が続くよう、脚力や骨盤底筋を鍛える運動の継続をして頂きたい。
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分補給の促しや、下剤をなるべく使用しないようおやつ等にも気を付けている。体操の声かけをしている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	時間帯は決めずなるべく1日置きの入浴を促している。毎日入浴される方もいる。拒否や入浴できない際は足浴や清拭を行っている。希望者は夜間入浴を行っている。	1人ほぼ週4回の入浴である。1日4～5人、午後から入浴を行っている。希望者には入浴剤を入れたり、ゆず湯やしょうぶ湯などで入浴を楽しめる工夫をしている。2人介助での入浴も行われている。	今後も心が通い合える貴重な時間として、入浴支援にあたって頂きたい。

46	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	消灯時間等は特に決めておらず、生活習慣や状況に応じ気持ちよく睡眠できるように支援している。		
47	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や要領について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	チェック表を利用し服薬ミスがないように複数のスタッフで確認しながら配薬している。		
48	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人一人の状態を把握し、それぞれに応じた役割をお願いして負担のないよう楽しく過ごして頂けるよう支援している。		
49	18 ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	外出拒否の方もおられる為個人差はありますが、希望に添って外出の機会を作っている。	公園への散歩や買い物を兼ねての外出等、ホームの外に出る事を心掛けている。が、実際は週1回程度となっている。介護タクシーと併設デイサービスの車を使つての初詣や花見など、季節の外出も年に数回楽しんでいる。	毎月の公民館での“ふれあい喫茶”にも参加し、まわりの人との触れ合いも出来ている。外出が無理の日でも、中庭のテラスを十分活用して日光浴をしたり身体を動かす運動をするなど、引き続きの支援をお願いする。
50	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭所持で安心される方にはご家族の理解のもとご自身で管理されている。		
51	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	希望時にかけられるよう支援している。携帯電話を使用している方には操作時介助している。		
52	19 ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居心地の良い空間が作れるように季節ごとに模様替えを利用者と共に行っている。季節を感じて頂ける様生花を飾っている。	平屋建ての、テラスを挟む形で左右にある各ユニットは、テラス側大ガラスからの採光で明るいリビングとなっている。各ユニットをつなぐ廊下には入居者と職員が明るい表情で写る写真が一面に貼られ、リビングも季節の飾りが大人の落ち着いた雰囲気を感じさせている。所々に飾られている生花も和やかさを感じさせる。	入居前と変わらない生活の継続という事で、入居者と職員は上靴を履かない生活である。清潔を心掛けて、掃除には念を入れて頂きたいと思う。また、天井の換気口やエアコンの排気口等も定期的に掃除をし、衛生に気を配る事も忘れない様お願いしたい。
53	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ユニット間の施錠をしていないので思い思いの場所で過ごして頂いている。障害に応じソファなどを工夫している。		
54	20 ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	今までの生活を継続して頂ける様なるべくご自宅を使っていた家具を持ち込んで頂いている。宿泊できる部屋は用意していないが布団は貸し出しできる。	ベッド・タンス・布団等各自の持ち込みで、个性的なその人好みの部屋作りとなっている。床敷で寝る方もおられる。最低1週間に1回のシーツ洗い、テラスでの布団干しなど、衛生にも気を配っている。	居室の掃除は職員が入居者と共に行っている。床だけでなくほこり取りにも心掛けて、快適な居室となるように支援をお願いする。
55	○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全を考えて制限させて頂く事もあるが、基本的にはご本人のペースを大事にして過ごせる様支援している。		

V アウトカム項目			
56	職員は利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聞いており信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての利用者として ②利用者の3分の2くらいと ③利用者の3分の1くらいと ④ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねてきている	○	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどいない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くない
66	職員は生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が ②職員の3分の2くらいが ③職員の3分の1くらいが ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
68	職員からみて利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族が ②家族の3分の2くらいが ③家族の3分の1くらいが ④ほとんどできていない